

## 令和5年度

### 劇場・音楽堂等活性化・ネットワーク強化事業

#### (地域の中核劇場・音楽堂等活性化)

### 成果報告書

団 体 名	公益財団法人水戸市芸術振興財団	
施 設 名	水戸芸術館	
助 成 対 象 活 動 名	公演事業・人材養成事業・普及啓発事業	
内 定 額 ( 総 額 )	34,667	(千円)
	公 演 事 業	21,505 (千円)
	人 材 養 成 事 業	6,517 (千円)
	普 及 啓 発 事 業	6,645 (千円)

# 1. 事業概要

## (1) 令和5年度実施事業一覧【公演事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数(人)	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	【専属楽団】水戸室内管弦楽団定期演奏会	5年5月13・14日、 10月21・22日	第111回定期 出演：D・マテウス(指揮)、 M・アルゲリッチ(ピアノ) / 第112回定期 出演：H・ホリガ- (指揮、オーボエ独奏)	目標値	2,300
		水戸芸術館 コンサートホール ATM		実績値	2,348
2	【専属楽団】新ダヴィッド同盟メンバーによる演奏会企画 [庄司紗矢香、小菅優]	5年9月23日、 11月11日	庄司紗矢香公演 出演：庄司紗矢香 (ヴァイオリン) 他 / 小菅優演奏会 出 演：小菅優 (ピアノ)	目標値	750
		水戸芸術館 コンサートホール ATM		実績値	859
3	【オリジナル企画】中田喜直 歌の世界 / テリー・ライリー 88th バースデー・コンサート	5年6月24日、 9月18日	中田喜直公演 出演：塚田佳男(曲目 構成・お話・ピアノ) 他 / ライリー公演 出 演：テリー・ライリー(キーボード) 他	目標値	820
		水戸芸術館 コンサートホール ATM		実績値	924
4	(欠番)			目標値	
				実績値	
5	【海外演奏家招聘】クリスチャン・ツィメルマン(ピアノ) / ヒラリー・ハーン(ヴァイオリン)	5年6月6日、 12月6日	ツィメルマン公演 出演：クリスチャン・ツィメルマン(ピ アノ) / ハーン公演 出演：ヒラリー・ハーン(ヴ ァイオリン)、アンドレアス・ヘフリガ- (ピアノ)	目標値	1,150
		水戸芸術館 コンサートホール ATM		実績値	1,328
6	【プロデュース公演】「ミュージカル水戸黄門」	5年12月21日 ~24日	脚本：井上桂、構成・演出：橋本昭博、 音楽監督：片野真吾、出演：安達勇 人、加藤良輔、TAKU、神田真紅 他	目標値	1,250
		水戸芸術館 ACM 劇場		実績値	1,112
7	【専属劇団】ACM ファミリーシアター	5年11月4日 ~12日	『リトルセブンの冒険』 作：中島か ずき、構成・演出：中屋敷法仁、出演： 塩谷亮、大内真智、小林祐介 他	目標値	1,200
		水戸芸術館 ACM 劇場		実績値	994
8	【専属劇団】「ゆうくんとマツトさん」演劇公演とおはなしキャリアボックス	5年4月29日 ~5月5日	『くものすおやぶんとりものちょ う』 脚色・構成・演出：ゆうくんとマ ツトさん、音楽：片野真吾	目標値	1,260
		水戸芸術館 ACM 劇場		実績値	1,610
9	【オリジナル企画】伝統芸能のススメ	5年4月15日、6月 3日、6月25日、他	野村万作抄 / 桂宮治独演会 / 立川志 の輔独演会 / 柳家花緑独演会 / 柳家 三三独演会 / 柳家さん喬独演会 他	目標値	2,640
		水戸芸術館 ACM 劇場		実績値	2,988
10	【プロデュース公演】『ファンファーレ』	5年7月13日 ~17日	『ファンファーレ!』 原作：ザワ部長『吹奏 楽部パンザイ!!!』、脚本：井上桂、演出： 深作健太、出演：荻沼栄音 他	目標値	2,100
		水戸市民会館 ユードムホール		実績値	1,143

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(2) 令和5年度実施事業一覧【人材養成事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数(人)	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	水戸室内管弦楽団メンバーによる器楽セミナー (小中学生、水戸ジュニアオーケストラ)	5年8月6日、 6年1月20日	小中学生吹奏楽セミナー 講師：猶井正幸 他／水戸ジュニアオーケストラセミナー 講師： 川崎洋介、柳瀬省太、辻本玲	目標値	110
		水戸芸術館 コンサートホール ATM		実績値	131／ 見学者 133
2	市民のためのオルガン講座	5年8月13日 ～6年3月17日	講師：室住素子、受講：実技レッスン初 級4名、実技レッスン中級2名、演奏家 育成コース、一回体験コース12組20名	目標値	参加者20 ／発表会 入場者 120
		水戸芸術館 エントランスホール		実績値	参加者24 ／発表会 入場者 180
3	茨城の名手・名歌手たち 第31回～出演者オーディ ション&合格者による 演奏会～	5年6月17日、 10月29日	オーディション 審査委員：池辺晋一郎、野 平一郎、堀伝、宮本文昭、吉村七重 演奏会 司会：宮本文昭、出演：10名	目標値	45
		水戸芸術館 コンサートホール ATM		実績値	39／ 合格者に よる演奏 会入場無 料336
4	水戸子どもミュージカル スクール	5年5月～7月、 9月～6年3月	体験入門クラス、発表公演クラス 両 クラス講師：高城信江 他	目標値	1,095
		水戸芸術館 ACM劇場、リハール室		実績値	1086
5	リーディングプロジェク ト	5年10月6日 ～15日	発表公演 『ロミオとジュリエット』 演出：大澤遊／クリエーション・ワ ークショップ 講師：大澤遊	目標値	110
		水戸芸術館 ACM劇場、リハール室		実績値	発表公演 入場者 124／ ワークショップ 参加者6
6	未来サポートプロジェク ト	6年1月27、28日	ダンスカンパニー「水中めがね」パティ- 『口 to X 根本紳平(水中めがね∞)特 集』／ワークショップ 講師：根本紳平	目標値	315
		水戸芸術館 ACM劇場、リハール室		実績値	公演入場 者216／ ワークショップ 参加者6

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

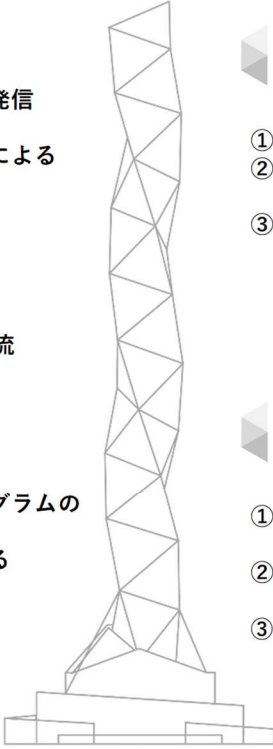
(3) 令和5年度実施事業一覧【普及啓発事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数(人)	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	水戸室内管弦楽団による 音楽鑑賞教育プログラム (小中学生)	5年10月20日、 6年1月24～28日	小学生対象 出演：水戸室内管弦楽 団、ハイツ・利ガ- (指揮・オホ <sup>o</sup> エ) / 中 学生対象 出演：高橋敦 (トラン <sup>o</sup> ペ <sup>o</sup> ット) 他	目標値	4,800
		リーアリーナ水戸、水戸芸 術館コンサートホール ATM		実績値	4,803
2	パイプオルガンによる音 楽鑑賞教育プログラム (0 歳児～未就学児)	5年4月～6年2月	0歳以上対象 出演：浅井美紀 (オル <sup>o</sup> ガ <sup>o</sup> ン)、 操美穂子 (ハー <sup>o</sup> ブ) / 幼児対象出 演：浅井美紀 (オル <sup>o</sup> ガ <sup>o</sup> ン)	目標値	1,750
		水戸芸術館 エントランスホール		実績値	1,631
3	プロムナード・コンサ ート	5年4月～6年3月	パイプオルガン・プロムナード・コ ンサ-ト プロムナード・コンサート EXTRA	目標値	4,000
		水戸芸術館 エントランスホール		実績値	3,579
4	水戸の街に響け！300人 の《第九》	5年9月～12月	企画：畑中良輔、指揮：打越孝裕、 合唱：一般公募による参加者、茨城 県合唱連盟、水戸市合唱連盟	目標値	300
		水戸芸術館 コンサートホール ATM、広場		実績値	287 / 入場者 2,800
5	小学生のための演劇鑑賞 会	5年11月7日 ～15日	『リトルセブンの冒険』 作：中島か ずき、構成・演出：中屋敷法仁、出演： 塩谷亮、大内真智、小林祐介 他	目標値	2,400
		水戸芸術館 ACM 劇場		実績値	2,897
6	地域交流プログラム	5年4月～6年2月	特別公演&ワークショップ 講師：沢 則行 / ワークショップ・シリーズ 講 師：塩谷亮、大内真智、小林祐介 他	目標値	360
		水戸芸術館 リハ-ル室、ACM 劇場		実績値	245 / ワークショッ <sup>o</sup> 参加者
7	朗読スタジオ	5年5月～6年2月	こども朗読スタジオ (基礎編)、おと な朗読スタジオ (基礎編)、朗読スタ ジオ (発表コース) 講師：壤晴彦 他	目標値	550
		水戸芸術館 リハ-ル室、ACM 劇場		実績値	1,186 / 発表公演 入場者

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

## 2. 自己評価

### (1) 妥当性

自己評価	
<p>ミッション（社会的役割等）・ビジョンや地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。</p>	
<p>下記の通り、5つのミッションに基づき、地域のニーズ・特性を踏まえたビジョンに対応させて事業を組み立てている。そして、当初の予定通りに事業計画を実施することができた。</p>	
<p><b>MISSION 1・2</b> 芸術文化の創造・発信・交流の役割</p> <p>▷ビジョン</p> <p>① 専属楽団・専属劇団による芸術創造・発信 → 公演事業 1, 2, 7, 8</p> <p>② 専門職員（学芸員）のオリジナル企画による芸術創造・発信 → 公演事業 3, 6, 9, 10</p> <p>③ 国際交流を果たす招聘公演 → 公演事業 5</p> <p>▶アウトカム</p> <p>① 日本の芸術文化の発展と国際交流</p>	<p><b>MISSION 4</b> 人材養成の役割</p> <p>▷ビジョン</p> <p>① 地域の舞台芸術 活動支援</p> <p>② 専属楽団・劇団メンバー等のセミナー実施による人材育成</p> <p>③ 子どもたちの発表会開催による若い才能の発掘 → 人材養成事業 1, 2, 3, 4, 5, 6</p> <p>▶アウトカム</p> <p>③ 地域の舞台芸術人材の拡大</p>
<p><b>MISSION 3</b> 教育普及の役割</p> <p>▷ビジョン</p> <p>① 教育委員会と連携した子ども教育プログラムの実施</p> <p>② すべての人に芸術体験の機会を提供する → 普及啓発事業 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7</p> <p>▶アウトカム</p> <p>② 芸術文化に親しむ市民の拡大</p>	<p><b>MISSION 5</b> 地方創生の役割</p> <p>▷ビジョン</p> <p>① 広場機能の充実 → 普及啓発事業 1, 2, 3, 4, 5, 6</p> <p>② にぎわいの創出 → 公演事業 10、連携企画（助成対象外）</p> <p>③ 地域の将来を担う若者世代へのアピール → 公演事業 1, 2, 3, 5, 6, 7, 8, 9, 10</p> <p>▶アウトカム</p> <p>④ 地域コミュニティの創造と再生</p> <p>⑤ 市民プライドの確立と若者世代の流出の抑制</p>
	
<p>助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。</p>	
<p><b>【文化的意義】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「水戸室内管弦楽団定期演奏会」（公演事業 1）では、現代最高峰ピアニストのマルタ・アルゲリッチと指揮者・オーボエ奏者、作曲家として活躍する巨匠のハインツ・ホリガーと日本人の精鋭が集まる水戸室内管弦楽団が共演することで、日本人演奏家の演奏水準の伸長に大きく貢献し、「淡々と音が紡がれていくだけに見えて、その間を縫って美が息づく」（音楽の友 2023.7 号）、「後期シューベルトの『未完成』の音楽を現代社会に向かって開き、その底に潜む不安も恐怖も（そして希望も）聴衆にアクチュアルに共有させる驚くべき演奏となった」（音楽の友 2024.1 号）といった音楽批評が出された。</li> <li>「ACM ファミリーシアター」（公演事業 7）では、劇団☆新感線の 20 数年前の作品を演出家の中屋敷法仁を招いて同氏の劇団メンバーも交えて ACM 専属劇団が再創作し、舞台表現の新しい可能性を追求した。</li> </ul>	
<p><b>【社会的意義】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「水戸室内メンバーによる器楽セミナー」（人材養成事業 1）「市民のためのオルガン講座」（人材養成事業 2）、「水戸子どもミュージカルスクール」（人材養成事業 4）、「未来サポートプロジェクト」（人材養成事業 6）など、助成対象の 6 つの人材養成事業を通して市民の芸術活動を支援した。</li> <li>子どもたちへの音楽・演劇鑑賞会を中心に数々の普及啓発事業を実施。これらを通して、公共ホールの社会包摂機能を果たし、人心の集積としての社会に潤いと活力を与えることができた。</li> </ul>	
<p><b>【経済的意義】</b></p> <p>世界でも例のない音楽・演劇・美術の 3 部門の複合施設として、国内最高峰の質を誇る水戸芸術館の活動は、地域住民の市民プライドの確立に寄与し、若者の首都圏への流出の阻止に貢献しており、この点から地域の経済活動に大きな役割を果たしている。また、文化 GDP という観点においては、当館の活動により年間約 3 億円の雇用が創出されている（令和 4 年度確定賃金総額に基づく）。</p>	

## (2) 有効性

### 自己評価

目標を達成したか。

#### 【公演事業】

<アウトカム> 日本の芸術文化の発展と国際交流

- 目標 a 専属楽団・専属劇団、オリジナル事業等の創造・発信事業の拡充と継続  
指標 a 専属楽団・専属劇団、オリジナル事業等の創造・発信事業 年間 42 公演  
実績値 年間 43 公演
- 目標 b 海外アーティストの招聘、海外作品紹介の拡充と継続  
指標 b 海外アーティストの招聘、海外作品による公演 年間 12 公演  
実績値 年間 11 公演
- 目標 c 国内の劇場・音楽堂と連携し、わが国の芸術文化振興に貢献する  
指標 c 当館が発信する事業の館外公演 年間 12 公演  
実績値 年間 12 公演

自己評価：アウトカム「日本の芸術文化の発展と国際交流」の発現のための目標 a, b, c の達成状況を把握するための指標 a, b, c の実績値は、指標目標値の 91.7%~102.4%であることから、概ね目標は達成されていると考えられる。

<アウトカム> 市民プライドの確立と若者世代の流出の抑制

- 目標 d 欧米の主要都市にも劣らない高水準の事業展開  
指標 d 創造・発信・交流事業（＝公演事業）への来場者の満足度 95%  
実績値 94.2%

自己評価：「市民プライドの確立と若者世代の流出の抑制」の発現のための目標 d の達成状況を把握するための指標 d の実績値は、指標目標値の 97.2%であることから、こちらも概ね目標は達成されていると考えられる。ただし、当該の目標は、事業の芸術的な質を問題にしていることから、今回設定した指標だけでは、その達成度を正確に把握することはできず、定性的な指標の案出と測定が大きな課題であると考えられる。

#### 【人材養成事業】

<アウトカム> 地域の舞台芸術人材の拡大

- 目標 人材養成プログラムの拡充と継続  
指標 人材養成プログラムの実施回数 年間 74 回  
実績値 年間 74 回

自己評価：目標の達成状況を把握するための指標の実績値は、指標目標値の 100%であることから、概ね目標は達成されていると考えられる。ただし、内訳をみると音楽部門（人材養成事業 1, 2, 3）が達成率 77.3%、演劇部門（人材養成事業 4, 5, 6）が達成率 109.6%であり、音楽部門の事業の一層の拡充が必要であると捉えている。

#### 【普及啓発事業】

<アウトカム> 芸術文化に親しむ市民の拡大

- 目標 a 教育普及プログラムの拡充と継続  
指標 a-1 教育普及プログラムの実施回数 目標値：年間 185 回  
実績値 年間 172 回  
指標 a-2 教育普及プログラムへの来場者数 年間 22,000 人  
実績値 19,481 人

自己評価：アウトカム「芸術文化に親しむ市民の拡大」の発現のための目標 a 達成状況を把握するための指標 a-1, a-2 の実績値は、指標目標値の 88.6%~93.0%であることから、概ね目標は達成されていると考えられる。改善項目としては、事業③のプロムナード・コンサートが実施回数目標 50 回→実績 44 回、入場者数目標 4,500 人→実績 3,906 人などが挙げられる。

<アウトカム> 地域コミュニティの創造と再生

- 目標 b 社会包摂プログラムの実施  
指標 b 各年代、社会的弱者への事業実施回数 年間 123 回  
実績値 105 回

自己評価：「地域コミュニティの創造と再生」の発現のための目標 b の達成状況を把握するための指標 b の実績値は、指標目標値の 85.4%であることから、こちらも概ね目標は達成されていると考えられる。指標 a-1 の達成度と同様に、普及啓発事業 3 のプロムナード・コンサートの実施回数目標 50 回→実績 44 回をはじめ、一層の実施回数の拡充が今後の課題として挙げられる。

### (3) 効率性

#### 自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

##### 【音楽事業】

音楽事業については、「公演事業」「人材養成事業」「普及啓発事業」のすべてにおいて、事業期間は適切で、当初の計画通りに進んだと評価している。音楽事業の大きな柱のひとつである「水戸室内管弦楽団定期演奏会」（公演事業1）は、創設者の吉田秀和初代館長の提唱により、平成2年の結成以来、「国内外で活躍する優れた日本演奏家たちを中心に集めて、演奏会場となるコンサートホール ATM で、十分な時間をかけてリハーサルを行ってもらう」ことを活動の骨格としており、現在もその方針に変わりはなく、1 定期演奏会あたり 4 日間のリハーサル（1 日 6 時間）と 2 回の公演を基本としている（右写真：公演事業1：第 113 回定期演奏会）。



##### 【演劇事業】

プロデュース公演における稽古期間から公演初日までの設定期間は適切であり、有意義な作品づくりができた。また公演集客数のデータからも計画した公演回数も適切であったと考えられる。17 演目の合計 39 回公演での客席数合計 12,114 席、対しての入場者数計 8,997 人で平均すると 75%弱であった。高齢者が中心の伝統芸能（公演事業9）、各世代が集まった「ミュージカル水戸黄門」（公演事業6）や発表公演（人材養成事業4、普及啓発事業7）、子供も含めた若い家族層をターゲットにした ACM ファミリーシアター（右写真：公演事業7）「ゆうくんとマットさん」（公演事業8）と幅広く各年代を集客できた。



アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

	支出			収入		
	当初予定	決算	減増率	当初予定	決算	減増率
公演事業（9事業）	163,300	176,592	108.1%	90,420	89,237	98.7%
人材養成事業（6事業）	10,955	10,949	99.9%	3,682	3,683	100.0%
普及啓発事業（7事業）	18,569	18,559	99.9%	11,083	11,085	100.0%
合計	192,824	206,100	106.9%	105,185	104,005	98.9%

（支出：助成対象支出額＋助成対象外支出額 収入：自己負担金を除いた収入額）

##### 【事業費の執行状況について】

○上記の表にある通り、支出合計は、当初予定額に対して 6.9%の増額。収入合計は、当初予定額に対して 1.1%の減額となった。これらの収支結果から、概ね適正な予算執行が行われたと評価している。

##### 【事業費の妥当性について】

○客席数がコンサートホール ATM：620 席、ACM 劇場：約 300 席（可変式）であるために、大都市に所在する大ホールのような多額の入場料収入を見込むことができない。このマイナス面を補う為に、ファンドレイジングによる資金調達、オリジナル企画の館外公演の実施による収入の確保、全職員による経費削減の継続的な取り組みを行っている。

○優れたアーティストを招聘するための費用等が高額になる事業があるが、それはわが国の文化的な国際プレゼンスの向上に寄与すべく、新しい芸術文化を創造し、国内外に発信する質の高い企画事業を行うという当館の開館以来のミッションの遂行に基づくものである。

## (4) 創造性

### 自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

#### 【専属楽団・専属劇団】

外部の楽団や劇団を定期的に招聘し、それを劇場・音楽堂の事業の骨格としている例は全国に数多くあるが、水戸芸術館は自らが専属の楽団と劇団を組織・運営している（独立した他の芸術団体を招き入れるフランチャイズ制とも異なる）。これら専属団体により展開される事業は、水戸芸術館オリジナルであると同時に水戸・茨城の地域固有の文化活動であり、市民プライドの確立に端を発する地方創生にも大きく貢献するものである。

#### ◎水戸室内管弦楽団（MCO）

##### <活動理念・組織体制>

吉田秀和初代館長の提唱により「国際的に活躍する日本人演奏家をメンバーの中心にした室内オーケストラ」として結成。明治以来の西洋文化、西洋音楽受容の過程で、日本人が西洋音楽を演奏し、聴取することの意義の探求を活動の理念としている。令和6年2月までは小澤征爾館長が当楽団の総監督を兼務した。

##### <定期演奏会>（公演事業1）

MCO 第111回定期演奏会では、気鋭の指揮者のディエゴ・マテウス氏と当代随一のピアニストのマルタ・アルゲリッチ氏を迎え、オーケストラも木管楽器を中心にメンバーが充実し、高い演奏会評を得た。MCO 第112回定期演奏会では、ハインツ・ホリガー氏の指揮とオーボエ独奏のもと、古典作品と現代作品をバランスよく配したプログラムでMCOのレパートリーと聴衆の層を広げることができた。

##### <教育プログラム>

「水戸室内管弦楽団 子どものための音楽会」（普及啓発事業1）は、コロナ禍によって中止を余儀なくされてきたが、4年ぶりに開催することができ、ハインツ・ホリガー指揮による最高水準の演奏を水戸市内・近郊の小学5年生2,644人に生の演奏を届けた。MCOのゲスト奏者・高橋敦（トランペット）や呉信一（トロンボーン）等が出演する「中学生のための音楽鑑賞会」（普及啓発事業1）では、水戸市内全中学1年生2,159人をコンサートホールに招き、ニュアンスに富んだ室内楽を鑑賞してもらった。

「MCO メンバーによる器楽セミナー」（人材養成事業1）では、楽団員代表のホルン奏者・猶井正幸をはじめ音楽大学で教鞭も執っているMCOゆかりの管楽器奏者たちが、水戸市内の4つの中学校の吹奏楽部を指導し、103名の生徒たちの演奏表現の発展に寄与した。

#### ◎劇団 ACM

##### <活動理念・組織体制>

ACM劇場での舞台出演に加え、各種教育プログラムを担当。現在の団員は水戸に常駐する4人の俳優から成り、市民とともに歩む地域に根差した活動で、舞台芸術の振興に力を注いでいる。

##### <公演事業>

ゴールデンウィークに恒例となった、未就学児から小学校低学年を対象にした親子で劇場体験をしてもらう絵本の舞台化シリーズのひとつとして、当館オリジナルの公演（公演事業8）を創作した。秋の小学校高学年以上を対象にしたACMファミリーシアター（公演事業7）では、東京から人気演出家の中屋敷法仁を招き、劇団メンバーとともに作品をつくり地域の観客に紹介できた。

##### <教育プログラム>

演劇鑑賞の機会のない未就学児への絵本の読み聞かせ（公演事業8：朝日新聞2024.3.10）、水戸市立全小学4年生を対象にした「小学生のための演劇鑑賞会」（普及啓発事業6）の企画立案、幼稚園・保育園への訪問公演、幅の広い年齢層を対象にした演劇ワークショップなど、演劇人口のすそ野を広げる活動を積極的に実施できた。

#### 【水戸芸術館オリジナル企画】

吉田秀和初代館長が運営の礎を築き、その遺志を継いだ小澤征爾館長のもと、音楽・演劇・美術の各部門に芸術監督と専門的な知識とスキルをもつ学芸員を配置した事業運営体制により、国際水準の質の高い公演や、地域のニーズを踏まえた効果的な人材養成・教育プログラムを実現している。令和5年度に実施した主要なオリジナル企画は以下のとおりである。

#### ◎音楽部門オリジナル企画

「中田喜直 歌の世界」（公演事業3）……当館音楽部門元総監督の故・畑中良輔と深い親交があった中田喜直の作品を、地元出身の歌手（小泉恵子、清水良一）も含めた演奏家たちを起用して当館ならではの公演として実施。

「テリー・ライリー」（公演事業3）……アメリカの初期ミニマル・ミュージックを代表する作曲家として知られ、コロナで帰国困難になったことを契機に山梨県北杜市に居を構えるテリー・ライリーの今日の創作を紹介した。

「300人の《第九》」（普及啓発事業4）……一般公募により集まった市民が3カ月間の練習を行い、年末に当館広場で、ベートーヴェンの交響曲第9番の第4楽章をエレクトーンやピアノ等の伴奏により披露する企画。今年度



は10歳から91歳まで287人の市民が参加。芸術活動を通して地域コミュニティの創生を図る企画である。

### ◎演劇部門オリジナル企画

2021年人材養成事業からスタートした連続企画を「ミュージカル水戸黄門」(公演事業6)として無事に終わることができた。これは2014年からスタートした地元の才能あるアーティストたちを紹介し続けた“未来サポート事業”の集大成的な意味合いでもある。そして地域の文化的資源を題材にしたので、観客の注目度も高かった。また隣接する市民会館の開業記念事業として企画した「ファンファーレ!!」(公演事業10)では地元高校の吹奏楽部のコロナ禍での物語を取り上げて市民会館オープンを盛り上げることができた。

### ◎演劇部門“学びの場”創出事業

高校生以上を対象にしたスクール「朗読スタジオ」(普及啓発事業7)では初めての試みとして小中学生を対象にした「子ども朗読」コースも前期限定で設定。同じく前期に参加しやすいように基礎コースも設定した。また「地域交流プログラム」(普及啓発事業6)では単発タイプの実演形式のワークショップとして対象も子供から高齢者まで幅広く設定して多様なテーマを心がけた。作品づくりで招聘した人気演出家による高校生との交流も話題になった(茨城新聞2023.10.14)。そして参加者の輪から地域コミュニティの再生にも役立っている。また受講生は舞台芸術鑑賞にも興味を持ってもらうので、公演事業の観劇参加にもつながっている。

### 総括

以上、当館の専属楽団・劇団および強力な企画運営体制等の固有の資源を活用し、各種事業を展開することで、文化芸術の継承、創造、発信の場である劇場・音楽堂として、活力ある地域社会の構築に寄与し、さらに地域コミュニティの創造と再生を通じて地域の発展を支え、国際文化交流の円滑化を図り国際社会の発展に寄与する地域の文化拠点としての機能を、当館は十分に果たしていると評価する。

## 自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった(と認められる)か。

### 【地域の実演芸術家の輩出】

「茨城の名手・名歌手たち」(人材養成3)では、これまでに小泉恵子(ソプラノ)、清水良一(バリトン)、上野耕平(サクソフォン)等を輩出。「水戸子どもミュージカルスクール」(人材養成4)では、卒業生及びその前身である「子ども演劇アカデミー」の卒業生から公演事業への出演者(荻沼栄音、根本紳平など)を輩出している。

### 【対象事業来場者アンケート/受講者評】

対象事業の入場者、受講者アンケートの5段階満足度のうち「とても満足」「満足」と回答した割合は音楽部門97.9%、演劇部門93%であった。また、入場者アンケートには、各公演から如何に感動や示唆や生きる力を受け取ったのかを窺い知れる多数の声が寄せられた(以上、対象事業アンケート集計結果に基づく)。これらのことから、市民の芸術理解の深化、地域の芸術活動の活発化など、地域の文化芸術の発展に大きく寄与することができたと評価している。

### 【新聞・専門誌等】

「水戸室内管弦楽団定期演奏会」(公演事業1)……朝日新聞2023.5.16、同2023.5.25、同夕刊2023.11.9、毎日新聞夕刊2023.6.28、音楽専門誌『音楽の友』2023.7号、同2023.1号、音楽専門誌『モーストリー・クラシック』2023.8号、同2024.1号

「ミュージカル水戸黄門」(公演事業6)……アーティストの地域での活動紹介「ぷらっとプラザ」2024.1号・毎日新聞全国版「24色のペン」2024.2.27、劇評として茨城新聞2023.12.23

「ファンファーレ!!」(公演事業11)……題材であるコロナ状況とともに公演評 茨城新聞2024.2.18

「市民のためのオルガン講座」(人材養成事業1)……茨城新聞2024.3.12

「水戸室内管弦楽団子どものための音楽会」(普及啓発事業1)……茨城新聞2023.10.28

「水戸の街に響け!300人の《第九》」(普及啓発事業4)……毎日新聞2023.12.18、茨城新聞2023.12.18、同2023.12.19、同2023.12.28

「小学生のための演劇鑑賞会」(普及啓発5)……鑑賞会記事 茨城新聞2023.11.16

「地域交流プロジェクト」(普及啓発6)……高校演劇部との交流 産経新聞2023.10.14

以上の批評およびレビュー記事が新聞・雑誌等に掲載され、公演事業では芸術性の高さ、人材養成・普及啓発事業では市民の文化生活にこれらの事業が如何に寄与したかを裏付ける証左となっている。

### 総括

以上の事象から、芸術性の高い公演事業を実施しその成果を国内外に発信すると共に、地域の文化拠点として市民の芸術活動を支援し、活力ある地域社会の構築に寄与していると評価する。

## (5) 持続性

### 自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

#### 【事業運営】

##### <館長・芸術委員会・学芸部門>

前項で挙げたように、当館は小澤征爾館長のもと、音楽・演劇・美術各部門に芸術監督と専門的な学芸員を配置している。この組織体制下で、国際水準の質の高い公演や、地域のニーズを踏まえた効果的な人材養成・教育プログラムを実現している。

##### <教育委員会との提携>

水戸市第6次総合計画に則り、水戸市教育委員会と提携し、小中学校の芸術教育に参画し、国内の大都市での水準を上回る教育プログラムを提供している。平成2年の開館から今日までに45,075人の小学5年生が水戸室内管弦楽団の演奏を聴き、79,000人の中学1年生がコンサートホールに足を運んでいる。「小学生のための演劇鑑賞会」は2004年のスタート以来、観劇児童総数は73,211人（内訳：学校訪問公演観劇50,553人（～平成24年）、劇場観劇22,568人（平成25年～））となっている。

#### 【経営戦略】

##### <対象者の拡大>

今日の低迷する経済状況下、中心市街地に位置する当館への市民の期待は大きい。地方においては多彩な芸術に触れる機会が相対的に少ないことを踏まえ、一部の芸術愛好家だけを対象にするのではなく、「文化権」を保障する機関として、すべての市民を対象とする事業運営を一層心掛け、活力ある街づくりに寄与する。

##### <財政基盤の強化>

国際水準の専属楽団運営や企画事業を行うためには、国内の平均レベルの事業運営体と比べ、より多くのコストがかかる。この問題の克服のために、ファンドレイジングによる財政基盤の強化を行っている。税収の地域格差に加え、本事業でも大手企業は東京をはじめ大都市に本社を置いていることから、地方都市である水戸で支援企業を募ることは、大都市の文化施設に比べて困難な状況にある。しかし、当財団は、令和5年度は、102件、29,700,000円の寄付金・支援金を得ており、今後も一層の拡充を図っていく。

#### 【人事戦略】

音楽・演劇部門には学芸職員として芸術監督と学芸員を配置し、事務局には財団の運営と施設管理を担当する事務職員、舞台技術を担当する専門の職員を配置している。組織活動の持続性という点では、現在わが国では非正規雇用者の増大が問題となっているが、当財団では、雇用者86名のうち正職員・無期雇用職員の割合はそれぞれ32名、34名で両者の合計は全体の76.7%を占める。水戸のような地方都市では、優秀な人材が集まりにくいのだが、安定した雇用環境の維持によって、人材の長期的な確保を実現している。

#### 【ネットワークの構築】

以下の機関・組織・団体等とネットワークを構築し、組織活動の持続性を担保している。

教育機関……水戸市教育委員会（小中学校関連プログラム共催、協力）、茨城大学（アート・マネジメント講座実施）、東京芸術大学（プロムナード・コンサート協力）、筑波大学（キャリア講座実施等）他  
音楽堂・劇場…別府アルゲリッチ音楽祭（水戸室内管弦楽団定期演奏会共同制作）、サントリーホール、愛知県芸術劇場、KAAT 神奈川芸術劇場、東京芸術劇場、世田谷パブリックシアター、リ्यूとぴあ新潟市民芸術文化会館、札幌コンサートホール Kitara、いわき芸術文化交流館アリオス、山口情報芸術センターYGAM、兵庫県立芸術文化センター他

#### 【PDCA サイクル】

PDCA サイクルを実行するために、学芸部門の芸術監督と事務局長を中心に組織を横断した運営検討委員会を設置している。同委員会では、事業評価に加え、あらゆる経営上の課題、問題を洗い出し、改善策について話し合っている。